

続・語呂合わせごろごろ5656

日本語以外では数字を覚えるとき、単語の中の文字の数を対応させる。円周率の場合、 $\pi = 3.14159 \dots \approx 3.146$ は、

Yes, I know a number.

3 . 1 4 1 6

Yes, I have a number. というのもある。コンマと小数点が一致しているところが芸の細かいところである。しかし、この方法は、けた数が増えると、とんでもない長文になってしまうのが欠点である。

3.141592653589... の 13 けたでは、

See I have a rhyme assisting,

My feeble brain its tasks sometime resisting.

となる。さらにけた数を増やして 31 けたになると、

3.141592653589793238462643383279...

Sir, I send a rhyme excelling

In sacred truth and rigid selling

Numerical sprites slucidate For me, the lesson's dull weight.

If Nature gain,

Not you complain

Tho' Dr Johnson fulminate.

フランス語にも同様の詩がある。やはり 31 けたである。

Que j'aime à faire apprendre un

nombre utile aux sages !

Immortel Archimède artiste ingénieur

qui de ton jugement peut

priser la valeur !

Pour moi ton problème eut de

pareils avantages.

ここまでくると相当な長さである。フランス語の方はよく分からないが、英語の方はちゃんと韻を踏んでいる。同じ 31 けたを比べて見れば断然日本語の方が短いことがわかる。

2 種類の数え方がある日本語

日頃私達は、電話番号や年号を覚えるのに語呂合わせを良く使う。最近は何も見かけなかったが、五十六(いそろく)とか一二三(ひふみ)というような数字だけの名前というものもある。このようなことは、まず外国では考えられない。同じ漢字文化圏でもおそらく無い。

このように、日本語が語呂合わせに適しているのはなぜであろうか。その理由は色々あると思うが、数詞が 2 種類あるということもその一つである。

ひい、ふう、みい、よお、いつ、むう、なな、やあ、ここの、とお

これは日本古来の数え方である。一人、二人は普通ヒトリ、フタリと言う。三度はサンドのほかミタビとも

言う．二十歳はハタチ，三十日はミソカ，八百屋はヤオヤ，これらは全部古来の読み方である．十の上は百をモモ（オ），千をチ，万をヨロズと読み，組み合わせて千万（チオヨロズ），八百万（ヤオヨロズ）となる．これら古来の数え方に，大陸から漢語の，

いち，に，さん，し，ご，ろく，しち，はち，く，じゅう
が入ってきて現在の両方が使われているわけである．

参考文献

- [1] 高木茂男『数学遊園地』（講談社ブルーバックス）
- [2] 矢野健太郎『数学のたのしさ』（新潮文庫）
- [3] 片野 善一郎『数の世界雑学辞典』（日本実業出版社，1984年）